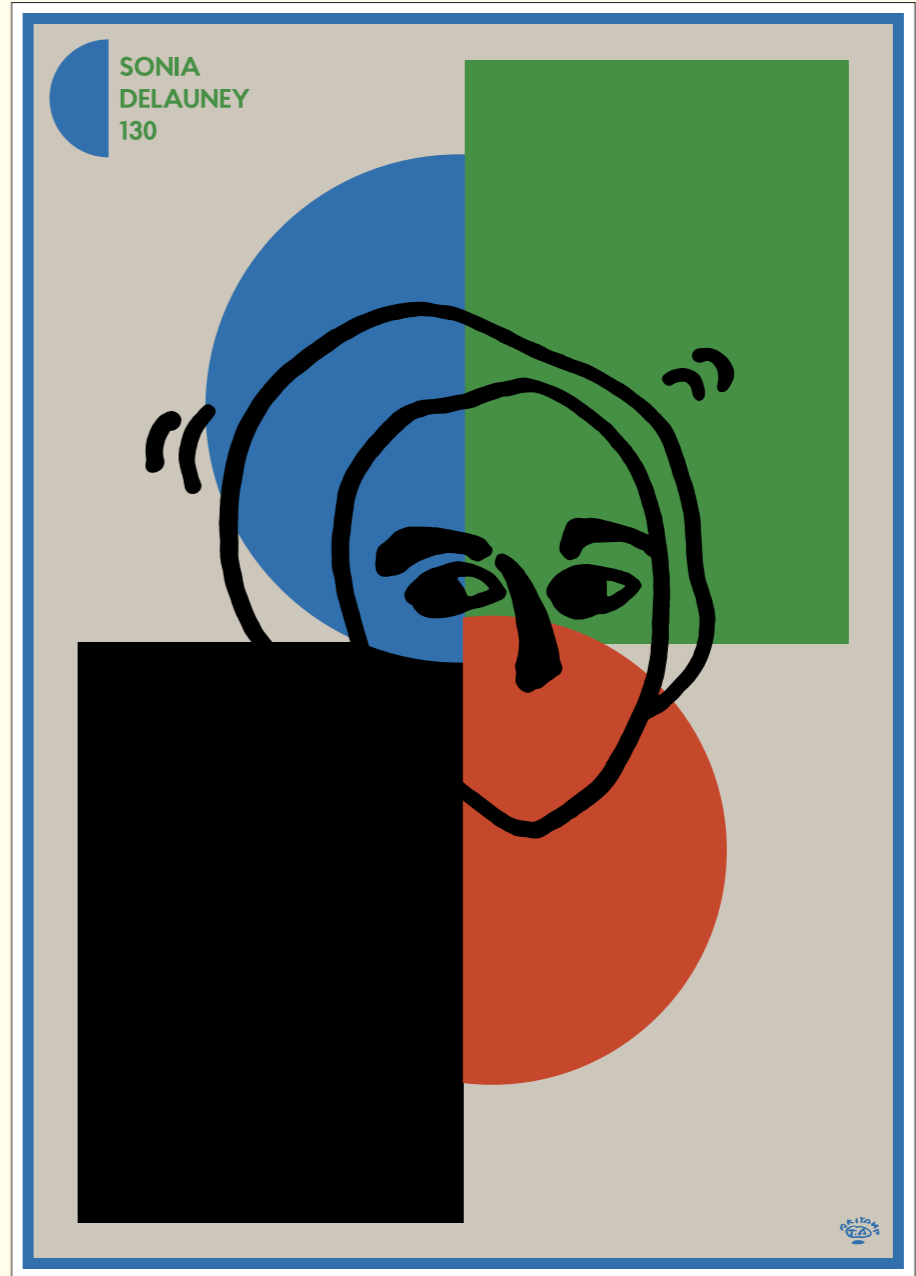


Poster-7 2016-2015
Takashi Akiyama



APM 20

Takashi AKIYAMA
Poster Museum
Nagaoka

ごあいさつ

秋山 孝

秋山孝ポスター美術館長岡・館長
多摩美術大学・教授

秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、2016年7月9日で創立7周年を迎える。新作ポスター集「Takashi Akiyama Poster-7」を発行することができた。

2015年11月、ボリビア国際ポスタービエンナーレ2015「日本のイラストレーションポスター展 ~CALTEL ILUSTRADO EN JAPÓN」に秋山孝のポスターコレクションより日本のイラストレーションポスターから50点選び、ボリビア国際ポスタービエンナーレ委員会に貸し出した。その内容は、日本のポスターの歴史を垣間見るものとなっている。また「日本ブックデザイン賞2015」のコンペティションが開催され、展示し、発表することができた。授賞式およびオープニングレセプションは、2015年9月12日(土)に快晴のもとに宮内摂田屋がもっている越後独特の雪国の街並みの中にあるAPM展示場で盛大に催された。全国から入選者たち関係者が集まった。

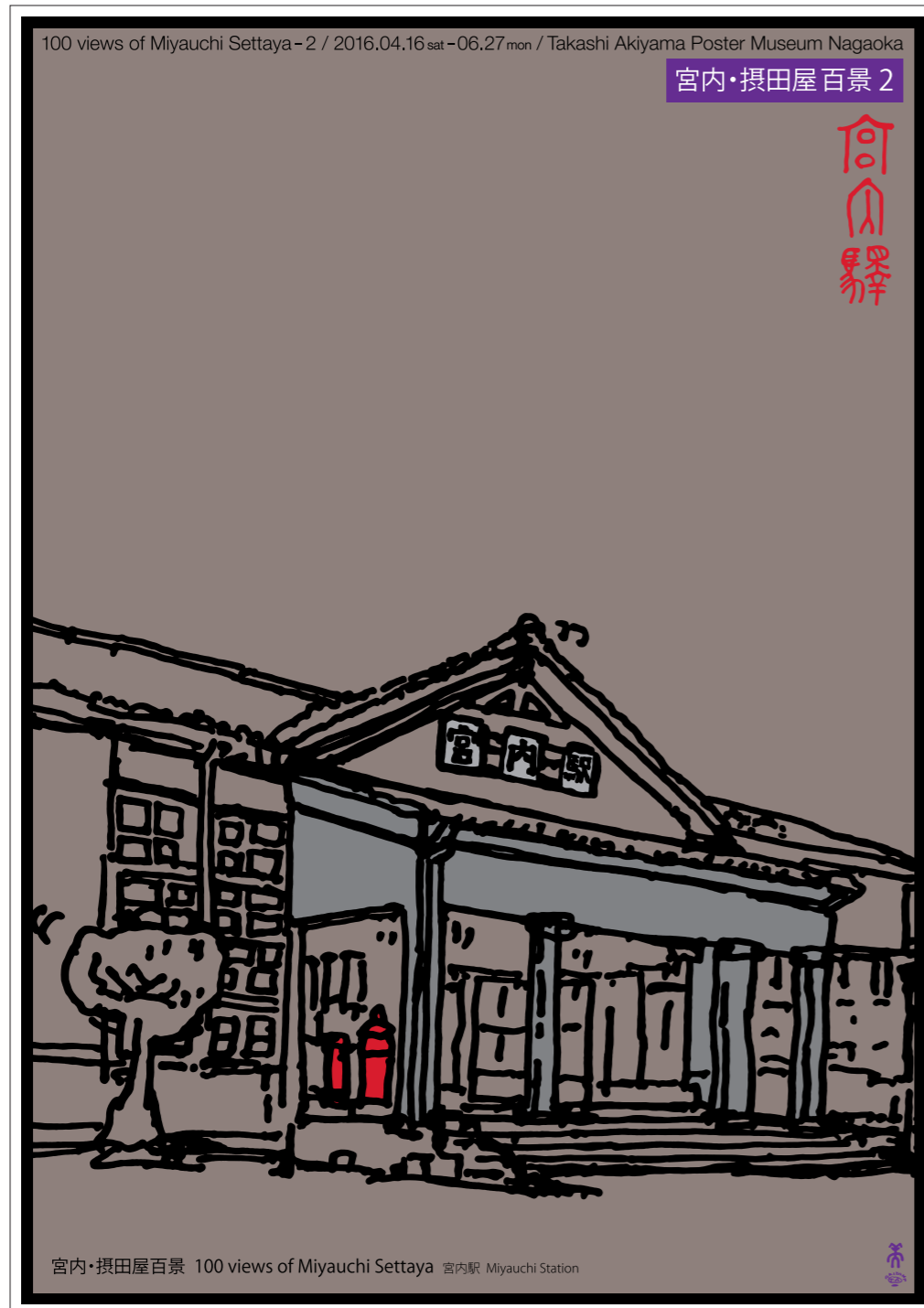
今年のポスター作品の特徴の1つ目は、メリーランド大学、コロラド州立大学、マサチューセッツ芸術大学の三大学の共同プロジェクトのリーダーJames Thorpeから招待されポスターを制作し出品したことだ。テーマは1945年8月の広島と長崎の被爆70周年を記念したもので、展覧会のタイトルは「Questioning the Bomb, History and Non- Proliferation (原爆を問う、歴史と不拡散)」であった。展覧会の日程は2015年9月2日から10月16日で、会場はメリーランド大学内のギャラリーで開催された。ポスターのデザインは、広島、長崎の原爆投下時のシーンを止め、その象徴として人間が天に吸い込まれていく一瞬の時間を表現した。色彩は投下された日の快晴を表すように一色のブルーで描いた。一方、人の生命をピンク色で表した。

2つ目は、ウクライナのThe 4th Blockグラフィックデザイナー協会からソニア・ドローネ生誕130周年展のポスターデザインの依頼を受けたことだ。2015年11月14日から世界各国で展覧会が開催された。ソニア・ドローネはウクライナ(当時ロシア国)出身で、絵画、応用美術、デザイナー活動など、実に様々な活動をした女性芸術家である。夫のロベール・ドローネは、アールデコの時代を代表する20世紀前半に活動したフランスの画家で、抽象絵画の先駆者の一人として知られる。ポスターデザインは、ソニアの長方形と半円形態をモチーフとしてアールデコ様式のヘアースタイルをしたポートレートを描き、抽象デザインの美しさに重なり合うよう表現した。

3つ目は、ぼくのポスター作品表現の秘密を解き明かすシリーズ第1回目の展覧会「秋山孝の神秘」展を開催したことだ。タイトルは「メタファー」で、日程は2015年7月11日から9月26日まで開催した。メタファーは表現者にとって最も重要なキーワードだ。このメタファーを操ることがぼくの表現の魅力となっている。一般的にはメタファーは言語において使われる修辞技法のひとつとされ比喩の一種だ。今回の告知ポスターは愛犬「ゴマ」だ。はっきりと細部を説明する描写ではない。うつむき加減で何を考えているのだろうか?よくわからない。ここがポイントだ。すると口元に文字が現れる。読むと展覧会の題目と日程、ポスター作品から神秘的な「声なき声」が聞こえてくる。

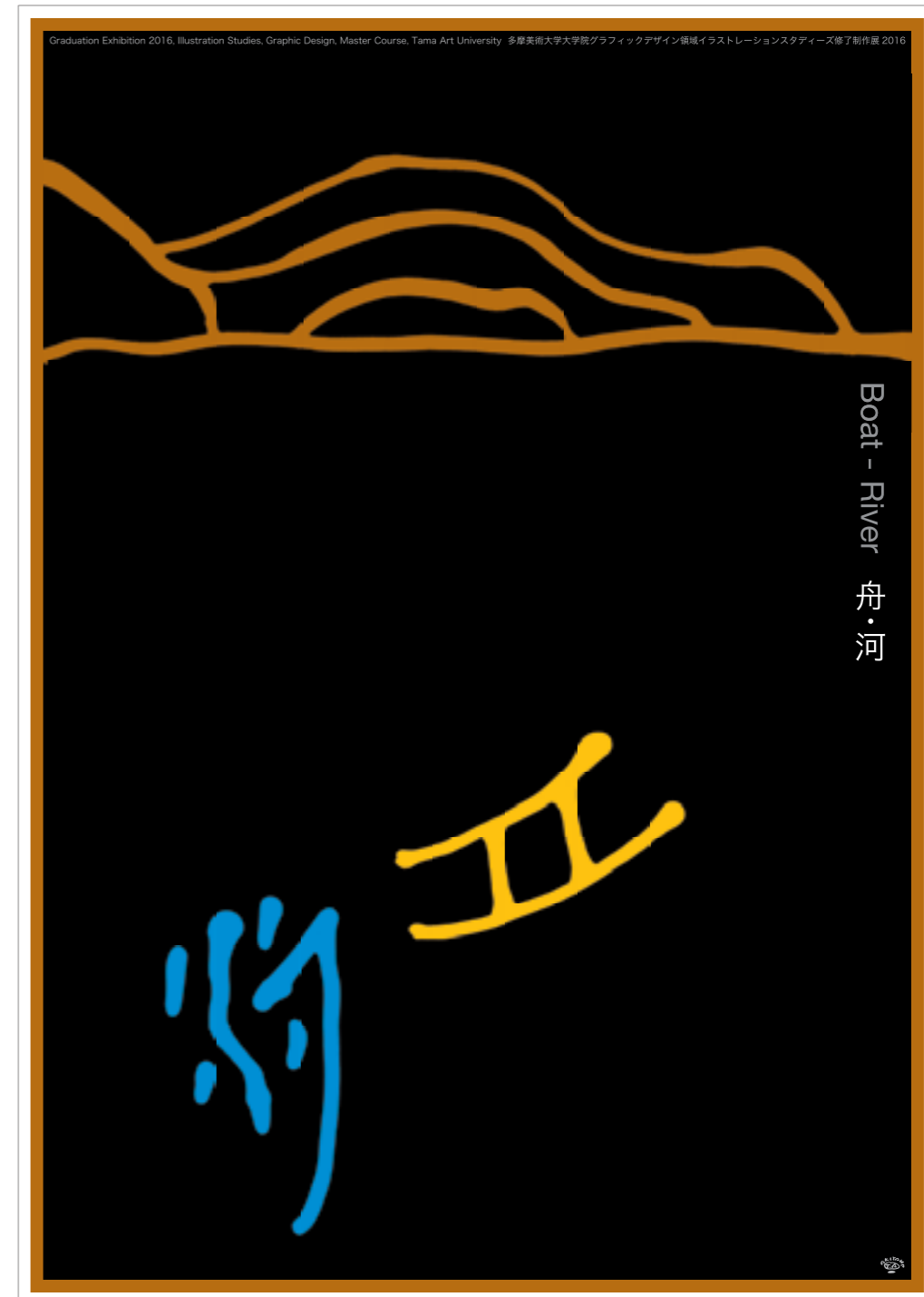
3点のポスター作品の特徴は、国際的なビジュアルコミュニケーション力を持っていることだ。さらに、自分自身のポスター作品表現の秘密を解き明かす第1回目の展覧会を開催することができた。それは、ポスター作品から神秘的な「声なき声」が聞こえてくることに尽きる。内容が理解しやすく簡潔なメッセージを持ち、人々の心を開く力がある。ぜひご覧ください。





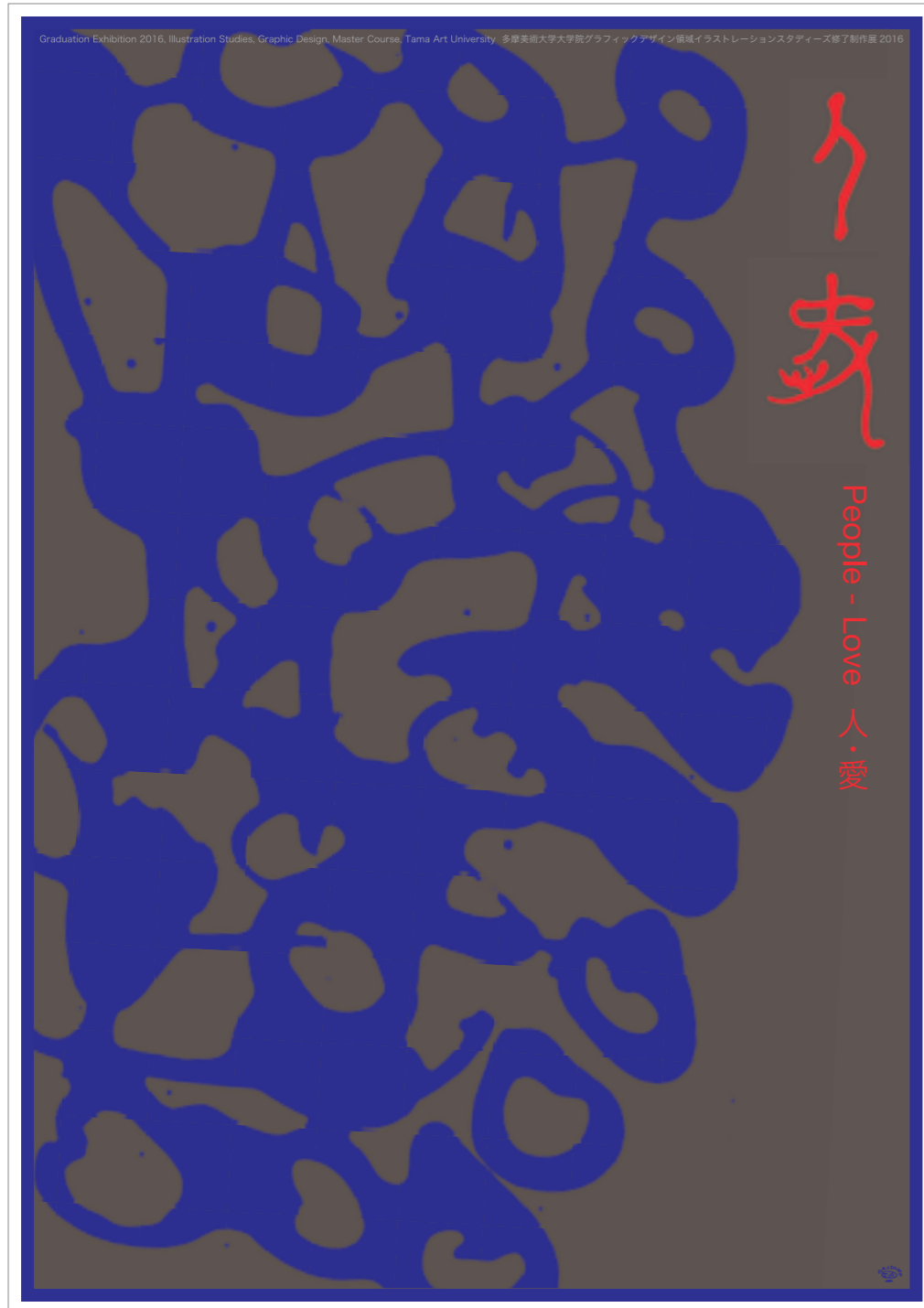
[Title] ----- 宮内・摂田屋百景展2「宮内駅」
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2016
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 国の登録有形文化財や歴史的建造物のある宮内、摂田屋は雪の降る前は鈍色(にびいろ)の空になる。それはとても憂鬱な日々だが、そのおかげで豊かな自然の恵みがもたらされる。そして美しい自然とともに、その街の独自性が現れる。それを発見するポスター展だ。描かれている宮内駅は現在の駅ではない。1947年(S.22)駅舎改築時の駅である。信越本線を所属線とし、宮内駅を終点とする上越線を加えた2路線が乗り入れている。1898年(M.31)12月27日、北越鉄道の信越本線・北条駅 - 長岡駅間が新設開業しスタートした。1987年(S.62)4月1日、国鉄分割民営化によりJR東日本の駅となり、1992年(H.4)現駅舎が完成した。



[Title] ----- 「Boat - River」多摩美術大学大学院グラフィックデザイン研究領域
 イラストレーションスタディーズ修了制作展
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2016
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 多摩美術大学大学院イラストレーション研究グループは、2004年から「イラストレーションスタディーズ修了制作展」を13年間継続的に開催している。2011年より南青山にあるGallery5610が会場となっている。この発表はイラストレーション世界における各専門的な切り口で、表現と研究を追究した成果である。この成果は今後、将来に向けての各自の指針となりうる。ポスターデザインは2点シリーズだ。タイトルは「舟・河」。文明の発生は河が重要な要素だ。エジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明、黄河文明いずれも大河流域で生まれた。「舟・河」の甲骨文字を絵として扱った。



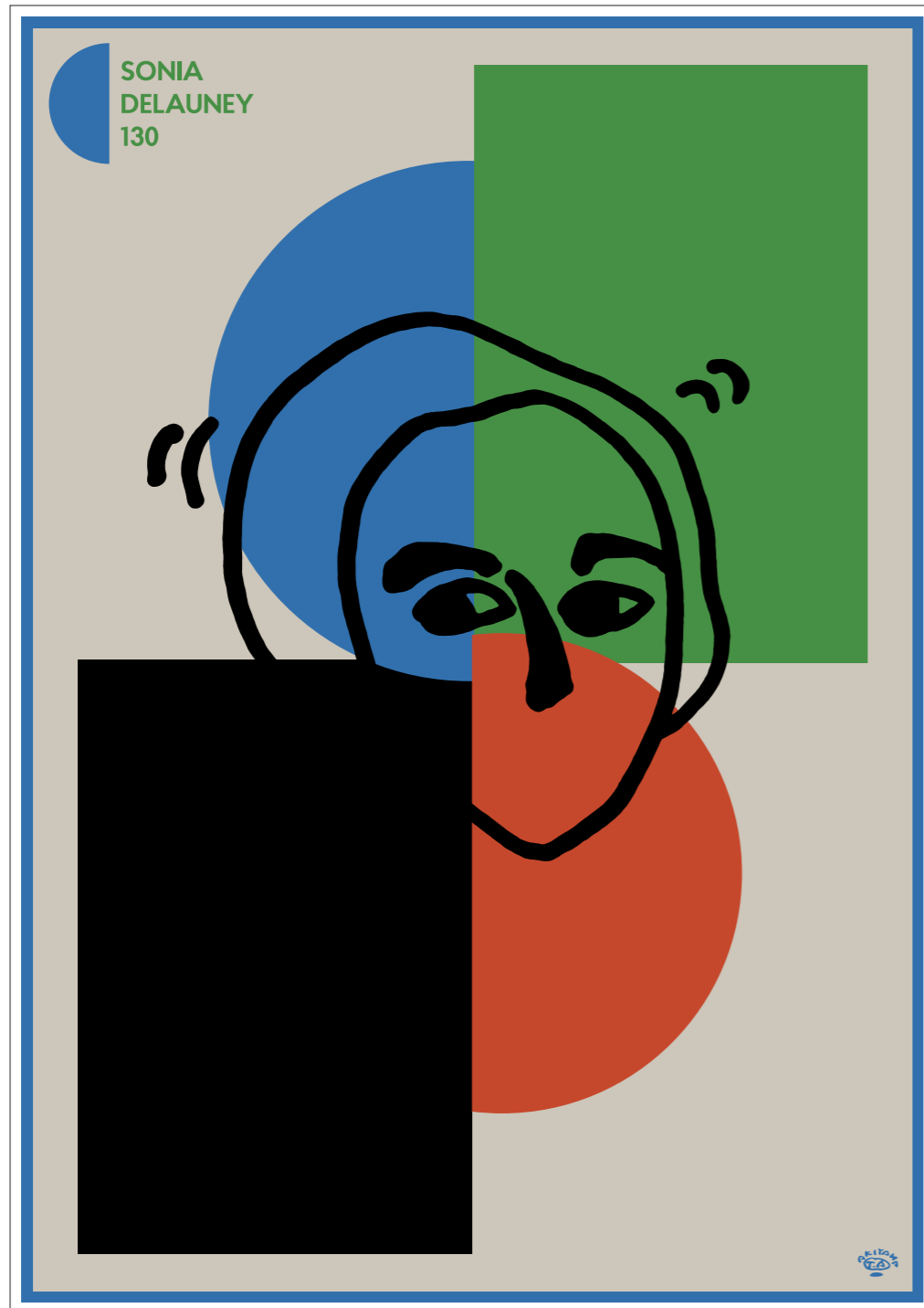
[Title] 「People - Love」多摩美術大学大学院グラフィックデザイン研究領域
イラストレーションスタディーズ修了制作展
[Size] 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] Offset printing
[Date] 2016
[Client] 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
[Category] Education

[Idea] 多摩美術大学大学院イラストレーション研究グループは、2004年から「イラストレーションスタディーズ修了制作展」を13年間継続的に開催している。2011年より南青山にあるGallery5610が会場となっている。この発表はイラストレーション世界における各専門的な切り口で、表現と研究を追及した成果である。この成果は今後、将来に向けての各自の指針となりうる。ポスターデザインは2点シリーズだ。タイトルは「人・愛」。書体は殷の時代に生まれた象形文字(甲骨・金文)を扱っている。表現するにあたって根源的なテーマにした。文字は絵から生まれ、簡略され記号化したものだ。



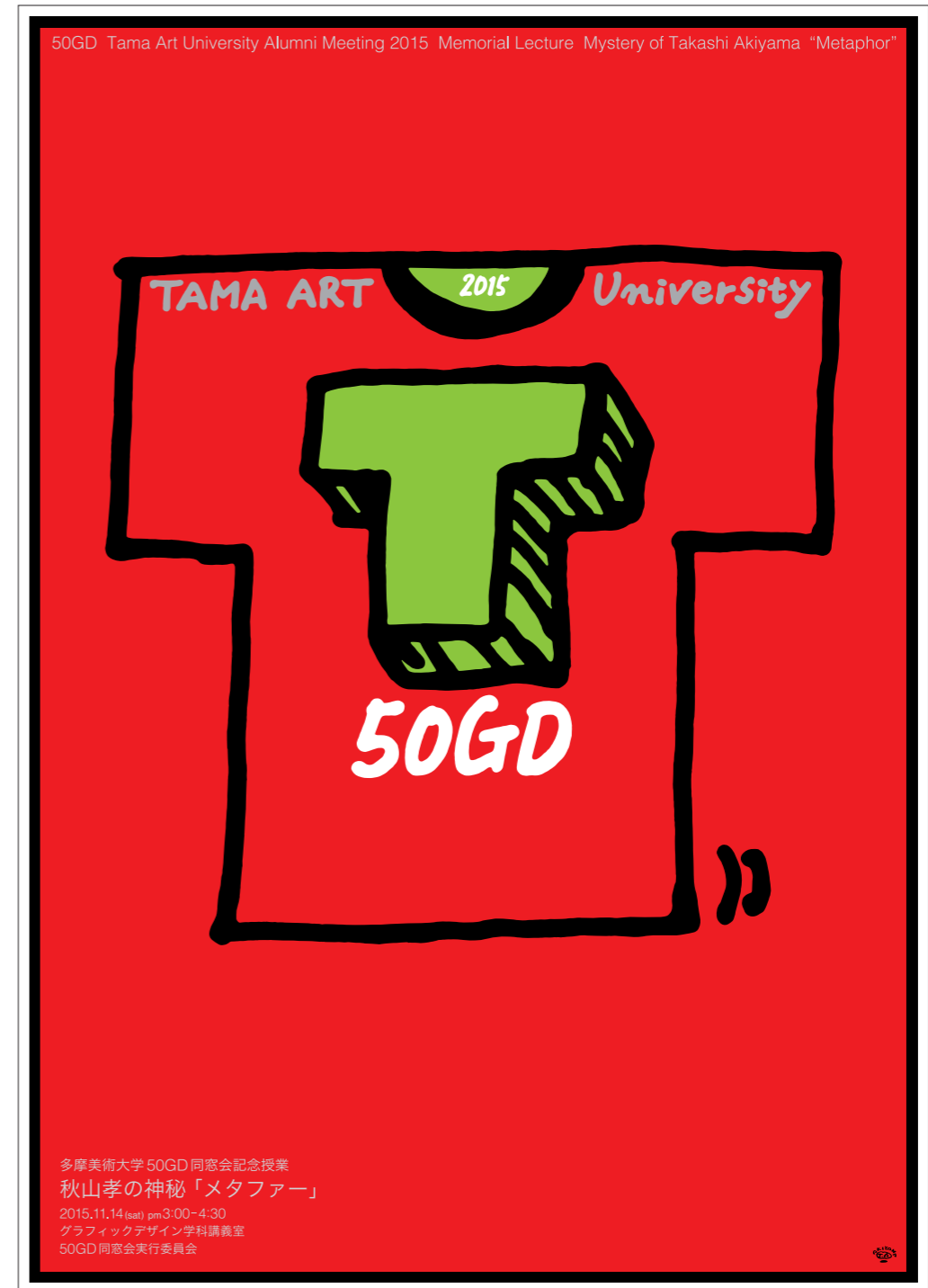
[Title] 日本ブックデザイン賞2016
[Size] 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] Offset printing
[Date] 2016
[Client] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
[Category] Culture

[Idea] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、第二回日本ブックデザイン賞2016の作品募集を開始した。ブックデザインはもともと装丁を意味し、本という知識の宝庫を長期間に渡って保存するために、その造本に関わる製本、本文や表紙の素材、箱、といった図書的设计をすることだ。電子ブックの登場した今だからこそ、装丁の美、装画の力を見直し、再認識しなければならないと考える。ブックデザインとは、読者と本の「最初の扉」といえるのだ。ポスターデザインは本と人との出会いの喜びをイラストレーションによって表現した。色彩はあくまでも明るく未来に向かい羽ばたくような喜びを歌い上げた。装丁と装画の価値の高さを認識し、日本ブックデザイン賞に誇りを感じる。



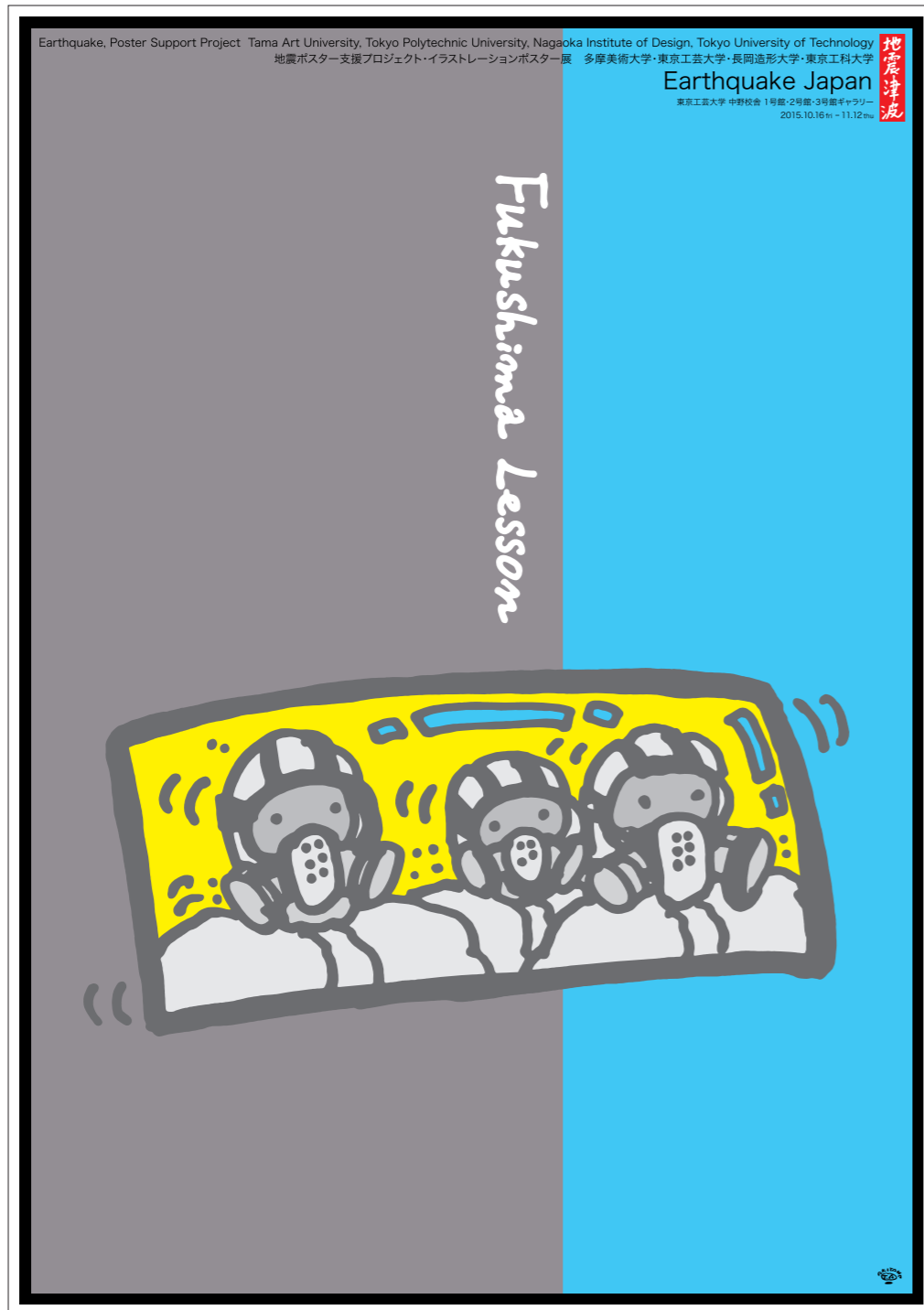
[Title] Sonia Delauney 130
 (130th anniversary of the birth of Sonia Delauney)
 [Size] 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2015
 [Client] Association of Graphic Designers "The 4th Block"
 [Category] Culture

[Idea] ウクライナのThe 4th Blockグラフィックデザイナー協会からソニア・ドローネ生誕130周年展のポスターデザインに依頼を受けた。2015年11月14日から世界各国で展覧会が開催された。ソニア・ドローネはウクライナ(当時ロシア国)出身で、絵画、応用美術、デザイナー活動など、実に様々な活動をした女性芸術家である。夫のロベール・ドローネは、アールデコの時代を代表する20世紀前半に活動したフランスの画家で、抽象絵画の先駆者の一人として知られる。ポスターデザインは、ソニアの長方形と半円形態をモチーフとしてアールデコ様式のヘアスタイルをしたポートレートを描き、抽象デザイン的美しさに重なり合うよう表現した。



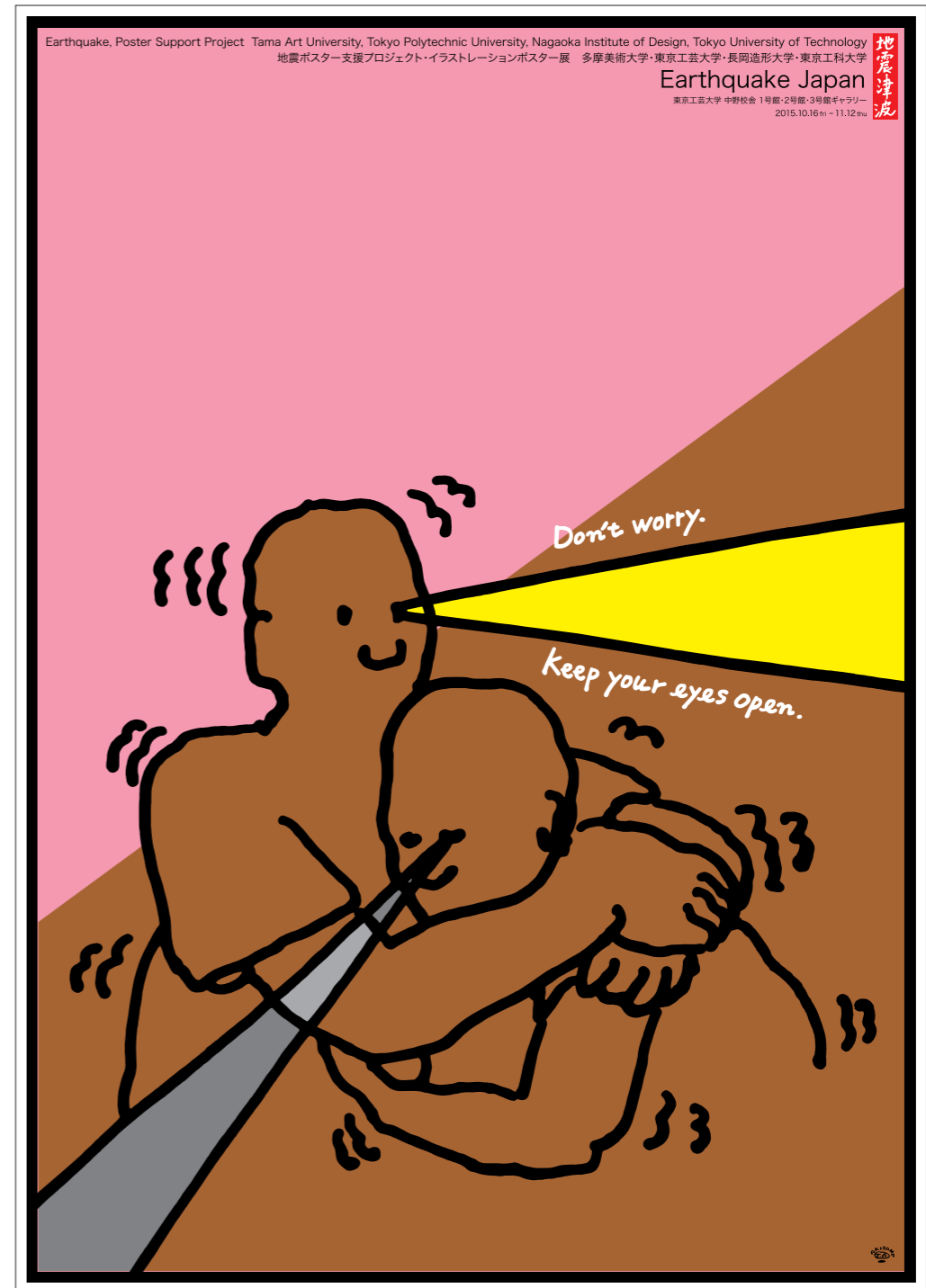
[Title] 50GD Tama Art University Alumni Meeting Memorial Lecture
 [Size] 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2015
 [Client] 50GD同窓会実行委員会
 [Category] Education

[Idea] 多摩美術大学グラフィックデザイン、昭和50年同窓会実行委員会より記念授業とTシャツのデザインに依頼を受けた。講義内容は、「秋山孝の神秘・メタファー」でその告知ポスターだ。Tシャツデザインについてのコメントをここに記す。「あつという間にぼくたちは、還暦を過ぎた人や過ぎようとしている人になりました。クラスメイトたちが今元気がどうか心配するようにもなりました。人生は長く、吉田兼好の「徒然草」を思い起こしたりします。みなさんいかがでしょうか。Tシャツのデザインは、多摩美のTとTシャツを重ね合わせ、輝く赤い色を配しました。さらに多摩美のTをグリーンの芝生のような青春色にし、これからも人生を満ち足りたものにするメッセージとしました。」9月30日/秋山孝の手紙を入れた。



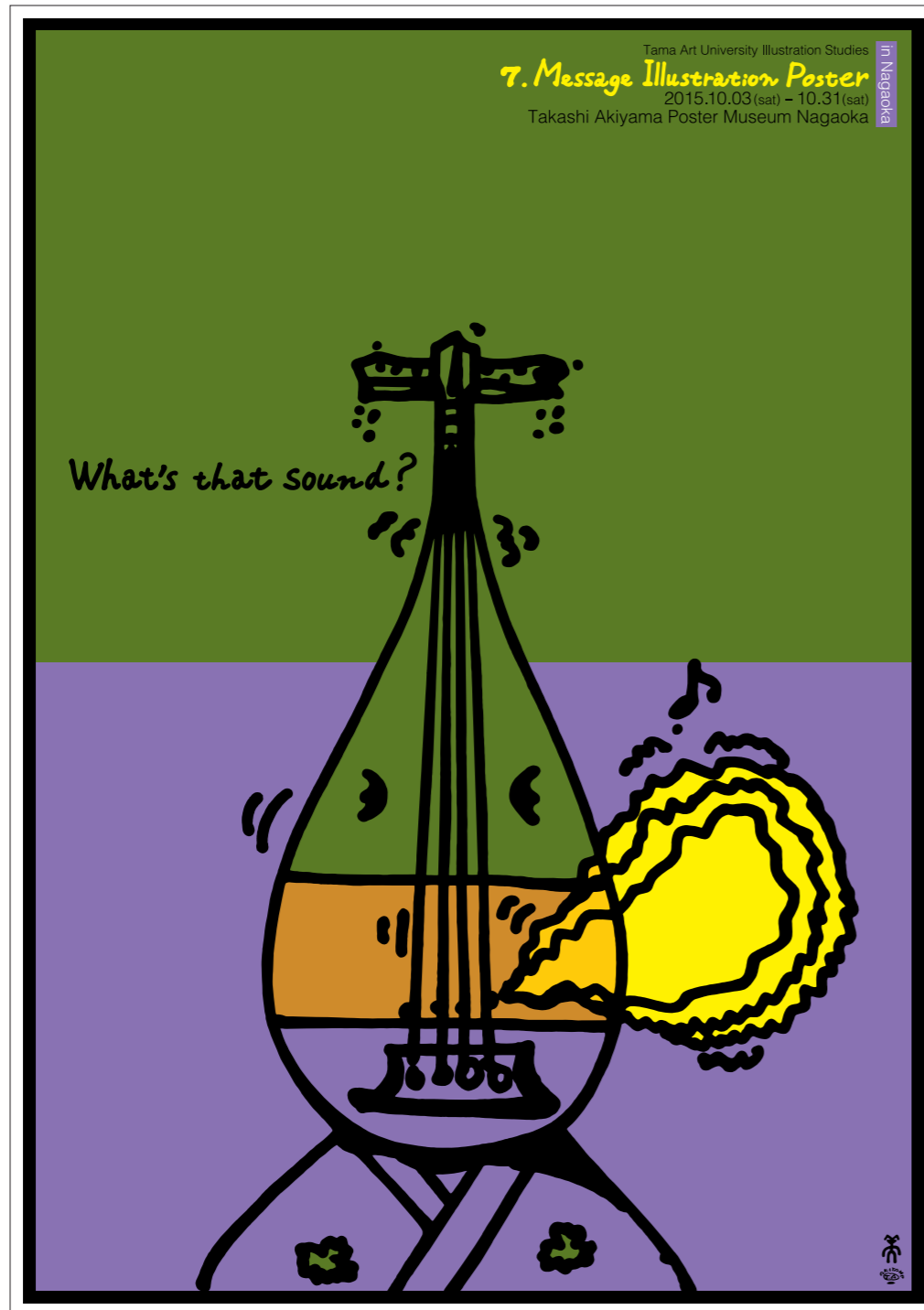
[Title] 地震津波 - Fukushima Lesson
 [Size] 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2015
 [Client] 地震ポスター支援プロジェクト
 [Category] Social, Education

[Idea] 「地震ポスター支援プロジェクト・イラストレーションポスター展」は、今年も東京工芸大学、中野校舎ギャラリーで10月16日から11月12日まで開催された。今回は、特別展として福島原発以前と以後のポスター作品を展示した。今まではなかった起こり得ない未知な問題が表現されることになった。それは原発の問題である。今までは地震といえば激しく揺れることが表現の中心となっていたが、核という恐ろしい世界がそこに描かれることになった。今回のポスターデザインは、「Fukushima Lesson」(福島の教訓)のコピーをセンターに置き、不気味な世界を淡いグレーとブルーの色彩で表現した。防護服姿は、儚くむなしくバックミラーに写っている。



[Title] 地震津波 - Fukushima Lesson
 [Size] 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2015
 [Client] 地震ポスター支援プロジェクト
 [Category] Social, Education

[Idea] 「地震ポスター支援プロジェクト・イラストレーションポスター展」は、多摩美術大学、東京工芸大学、長岡造形大学、東京工科大学による共同プロジェクトである。今年で12年目となった。展示会場は、今年も東京工芸大学、中野校舎ギャラリーで約170点のポスター作品を展示した。このプロジェクトは、「継続の価値」という重要な知識と知恵をもとに展覧会を続けている。今回のポスターデザインは、「Don't worry.」「Keep your eyes open.」と地震の恐怖を冷静にぞして、落ち着いて判断することを促すメッセージにした。絶えず安全は、私たちの心の中にある。それを視線の動きで現した。おびえているが決して慌ててはいない。



[Title] ----- 7. Message Illustration Poster in Nagaoka
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2015
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) で開催される7回目となる展覧会、多摩美術大学・大学院生による「メッセージ・イラストレーション・ポスター展」だ。美術館における展示発表は各自の研究創作に客観的な視点をもたらす。3つのキーワードがあり「1. メッセージ (内容)、2. イラストレーション (表現)、3. ポスター (メディア)」がその指針となっている。継続は、かならず魅力的な発見がある。ポスターデザインは、正倉院の御物、天平文化の「紫檀木画槽琵琶 (したんもくがそうのびわ)」を演者の顔に見立て、天平の調べを奏でている。その音色は「What's that sound ? (あの音は何?)」と響いている。それは聞いたこともない音色だ。



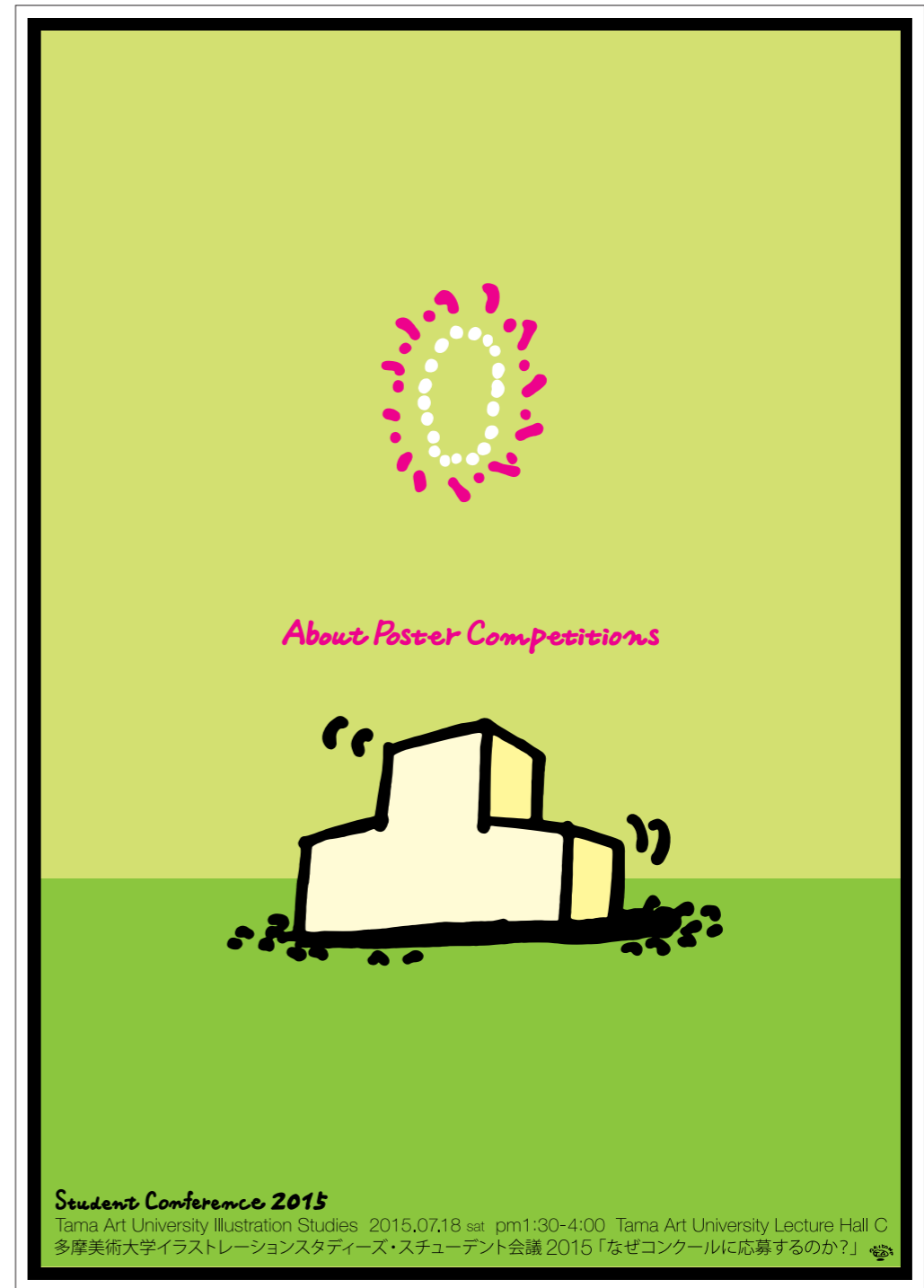
[Title] ----- 13. Message Illustration Poster 2015
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2015
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 「第13回メッセージ・イラストレーション・ポスター展」は、2015年9月5日から17日まで多摩美術大学デザイン棟ギャラリーで開催された。この展覧会は、銀座にあるモン・ラボ (王子製紙) で2000年からスタートし16年目を迎えた。今回は学部生、修士課程、博士課程、研究生87名が参加した。ポスターデザインは、87名の発想から生まれた作品の多様化されたアイデアをシンボリックに表現した。作者の向いている方向は千差万別で、束ねることが不可能だが、イラストレーションで描くと1つの展覧会として実現されている。そのトリックを駆使した。ぼくたちは絶えず新鮮で魅力的なイラストレーションを描こうと努力していることを表している。



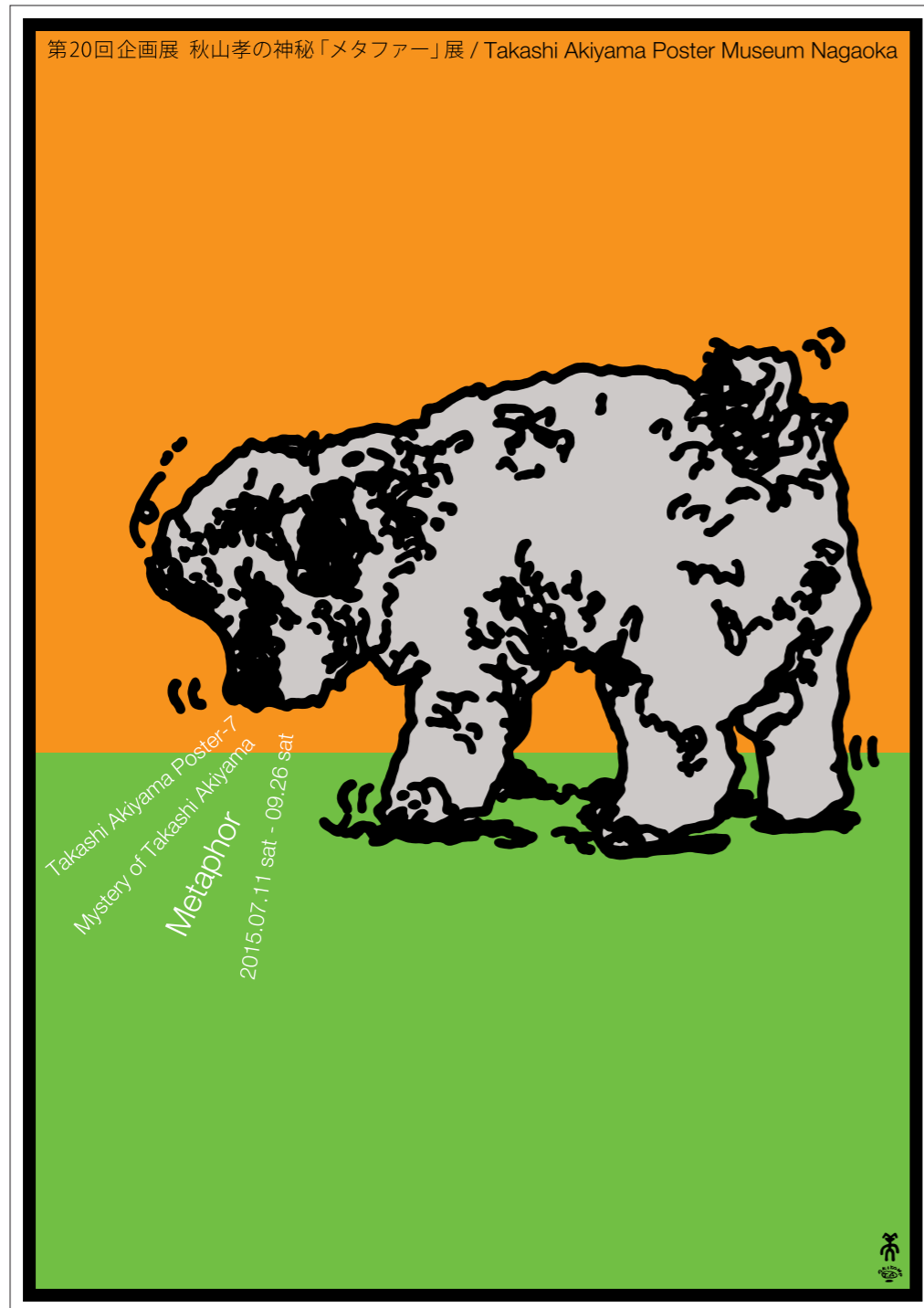
[Title] ----- 日本ブックデザイン賞2015展
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2015
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)は、日本ブックデザイン賞を設立し、受賞・入選発表とともに、受賞展示と表彰式を行なうことができた。第1回展にもかかわらず、上質な作品が応募された。日本ブックデザイン賞の目的は「1. 本の美的価値を認めます、2. 本の知を守ります、3. 出版文化の発展に寄与します」の3つを柱としている。これを誇りを持っておこなうべき社会への提案としている。課題図書は、日本文学、海外文学、児童文学の分野とした。ポスターデザインは、創造したブックデザインをキャンバスに描いたイメージである。それが後に実体になったということが分かるよう、色を変えて表した。その色彩はピンクから黄色へと変えたものだ。



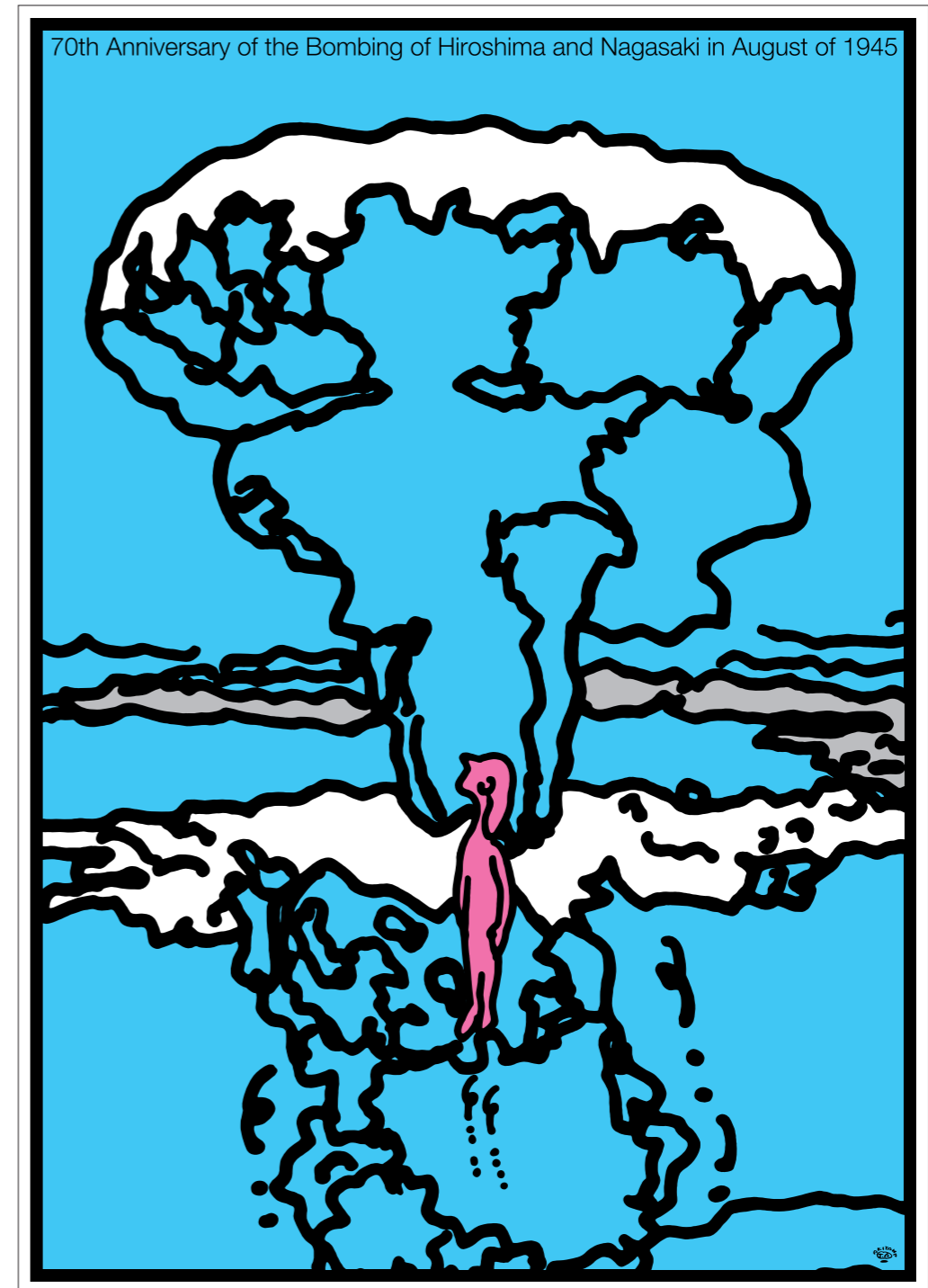
[Title] ----- About Poster Competitions, Student Conference 2015
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2015
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 多摩美術大学グラフィックデザイン学科イラストレーションスタディーズ「スチューデント会議」は、17回目を迎えた。問題点を浮かび上げさせ、概念を変えていく力になることを目的としている。今回は「なぜコンクールに応募するのか?」をテーマとした。これらの根本的考えを導きだすために、会議を開いた。そこには「なぜ応募するのか」「あなたにとってコンクールとは何か」「あなたにとって創作とは何か」まで踏み込み議論した。その告知ポスターは、広い芝生に表彰台を描き「コンクールとは何か」というメッセージをデザインした。競争では勝ち負けによる序列ができ、参加者は自分の結果に満足もあるが、涙を浮かべることもある。



[Title] 秋山孝の神秘「メタファー」展
[Size] 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] Offset printing
[Date] 2015
[Client] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
[Category] Culture

[Idea] 秋山孝の神秘展は、秋山のポスター作品表現の秘密を解き明かすシリーズ第1回目の展示会だ。タイトルは「メタファー」で、日程は2015年7月11日から9月26日まで開催した。メタファーは表現者にとって最も重要なキーワードだ。このメタファーを操ることが秋山の表現の魅力となっている。一般的にはメタファーは言語において使われる修辞技法のひとつとされ比喩の一種だ。今回の告知ポスターは愛犬「ゴマ」だ。はっきりと細部を説明する描写ではない。うつつむき加減で何を考えているのだろうか？よくわからない。ここがポイントだ。すると口元に文字が現れる。読むと展示会の題目と日程、ポスター作品から神秘的な「声なき声」が聞こえてくる。



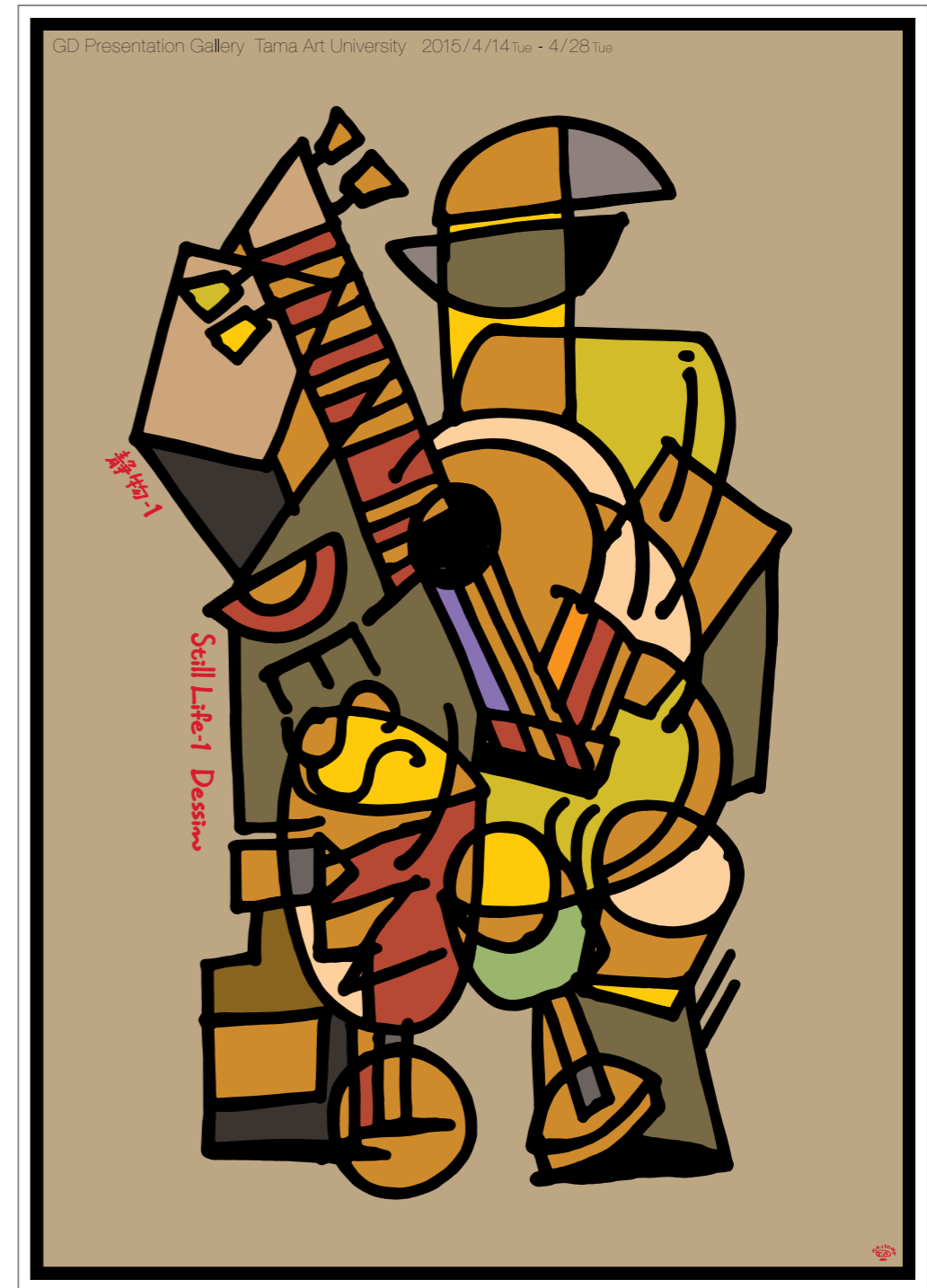
[Title] 70th Anniversary of the Bombing of Hiroshima and Nagasaki in August of 1945
[Size] 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] Offset printing
[Date] 2015
[Client] メリーランド大学、コロラド州立大学、マサチューセッツ芸術大学
[Category] Social

[Idea] メリーランド大学、コロラド州立大学、マサチューセッツ芸術大学の三大学の共同プロジェクトのリーダーJames Thorpeから招待されポスターを制作し出品した。テーマは1945年8月の広島と長崎の被爆70周年を記念したもので、展示会のタイトルは「Questioning the Bomb, History and Non-Proliferation (原爆を問う、歴史と不拡散)」であった。展示会の日程は2015年9月2日から10月16日で、会場はメリーランド大学内のアートギャラリーで開催された。ポスターのデザインは、広島、長崎の原爆投下時のシーンを止め、その象徴として人間が天に吸い込まれていく一瞬の時間を表現した。色彩は投下された日の快晴を表すように一色のブルーで描いた。一方、人の生命をピンク色で表した。



[Title] ----- 池ボス展 / 創形美術学校
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2015
 [Client] ----- 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館 / 池ボス実行委員会
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 池ボス実行委員会は第10回「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」の一つとして2015年5月14日から5月27日の間、創形美術学校ギャラリー・ブントで「池ボス展」と題した池袋の街を活性化化するプロジェクトの展示会を企画した。「池ボス」というのは池袋をポスターによって知らしめる短縮のタイトルだ。実行委員会から池袋にある創形美術学校のポスターデザインの依頼を受けた。創形美術学校は長い歴史のある美術の専門学校で、池袋に新校舎を建て、現在まで至っている。その学校のシンボルマークは1990年8月にグラフィックデザイン科の新設にともない、ぼくがデザインした。それはグラフィックデザインの造形要素、点、線、面をモチーフにした。新入学をテーマに、シンボルマークと桜の花が散る校舎を描いた。



[Title] ----- 静物-1 / Dessin
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2015
 [Client] ----- 多摩美術大学デッサンプロジェクト
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 1993年に基礎デッサンのプログラムをスタートしてから23年目を迎えた。本年2015年は「静物-1」と題した展示会を多摩美術大学GDプレゼンテーション・ギャラリーで4月14日から28日まで開催した。描くための画材や技術、そして表現の広がりとなるイスマへの展開を学び、静物画の本質を理解する。そのことによって、グラフィックデザインの表現の基礎能力を高めることを目的としている。展示会告知ポスターデザインは、ピカソ、ブラックのキュビスムの静物画(20世紀初頭)の研究をもとに多視点をもつ描法をもとに描いた。色彩は、あくまでも二人の静物画に使われた基本的なものだ。ルネサンス以来の一点透視図法を超えた表現となっている。





2015年11月、秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) のポスターコレクションによる展覧会「日本のイラストレーションポスター展」をボリビア多民族国・ラパスのボリビア国際ポスタービエンナーレ2015 (Bienal del Cartel Bolivia BICeBé 以下、BICeBé) において開催した。

世界で代表的なポスター展に、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ、ラハティ国際ポスタートリエンナーレ、メキシコ国際ポスタービエンナーレなどがあるが、BICeBéは、2009年から始められた新しいポスター展である。コミッティーのメンバーは13名で、主にボリビア国内のグラフィックデザイナーやイラストレーターを中心に構成されているが、その一員にはメキシコ国際ポスタービエンナーレのディレクターであるハビエル・ベルムーデスを迎えている。他に、アルゼンチン、ペルー、コロンビアからもひとりずつメンバーが加わっていて、ラテンアメリカが連合した構成になっている。主催者の代表は、スサナ・マチカオ氏で、現在40代になったばかりの若手グラフィックデザイナーである。若い世代が中心になって運営されていることは、他のポスタービエンナーレにはまだ見られない大きな特徴といえる。ビエンナーレ会期中は、国際ポスターコンペティションの開催と入選した作品による展覧会をメインイベントに関連企画展が街中で行われる。また、ラパス市内のホールで各国のクリエイターや美術館の代表者たちによる講演会が開催される。また、市内の大学の協力のもとデザイン教育のシンポジウムが行われ、現地の学生に対してポスター制作に関連した内容の教育プログラム(ワークショップ)が行われる。教育プログラムを開催することは、同じ南米大陸の先

輩格であるメキシコ国際ポスタービエンナーレと同じスタイルをとっている。

本展開催の経緯は、2015年4月にスサナ氏から日本のポスター展を開催することはできないだろうかという相談があったことによる。そこで、APMが収蔵しているコレクションの中から50点を選び、BICeBéと共に企画展を開催することになった。このコレクションは、2005年、多摩美術大学創立70周年記念事業の一環として「東方のイラストレーションポスター 中国・韓国・日本」という共同研究が立ち上げられたことを発端としている。研究資料収集として集められた作品は、2007年に多摩美術大学美術館で発表を行った後、半数以上をAPMに収蔵している。

日本のポスター作品には、元来から豊かなイラストレーション表現が用いられてきて、それが現代にまで続く大きな特徴になっている。そのことをボリビア国際ポスタービエンナーレを通して展覧会をご覧になった多くのラテンアメリカの方々にご理解いただけたのではないかと考えている。

(たかだみつみ・APM学芸員)

※ボリビア(正式名称はボリビア多民族国):

南米大陸のほぼ中央に位置し、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン、チリ、ペルーと国境を接した海のない内陸国である。国土は日本の約3倍で、主要都市の半分近くが標高2000m~4000mという高地に位置している。人口約1,003万人、その構成は非先住民に対して先住民が過半数を占めるという、南米の中でも特に先住民の人口が多い国といえる。

●ボリビア国際ポスタービエンナーレ(BICeBé)のURL

<http://www.bicebebolivia.com/exhibiciones-bicebe-2015>





APM2 Takashi Akiyama Poster 2010-2009



APM3 Poster-2 2011-2010 Takashi Akiyama



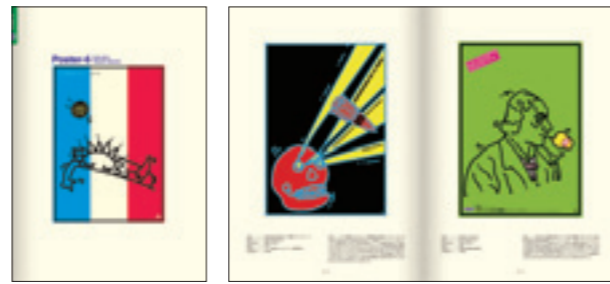
APM5 Poster-3 2012-2011 Takashi Akiyama



APM8 Poster-4 2013-2012 Takashi Akiyama



APM13 Poster-5 2014-2013 Takashi Akiyama



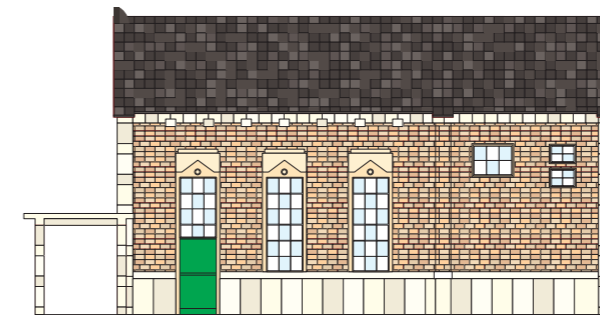
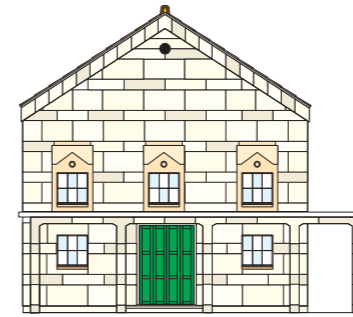
APM17 Poster-6 2015-2014 Takashi Akiyama



APM20 Poster-7 2016-2015 Takashi Akiyama



日本ブックデザイン賞2015授賞式後の取材 秋山孝館長 2015年9月12日



ポスター:大町駿介



ポスター:御法川哲郎

- ・開館時間：午前11時～午後5時まで
(入館は閉館の30分前まで)
- ・休館日：火曜日
- ・開館期間：4月～10月 / 閉館期間：11月～3月
- ・入館料：無料

APM20
Poster-7 2016-2015 Takashi Akiyama

発行日：2016年4月1日
 発行者：秋山孝
 発行所：秋山孝ポスター美術館長岡
 〒940-1106 新潟県長岡市宮内 2-10-8
 Tel,Fax：0258-39-1233
 E-mail：info@apm-nagaoka.com
 URL：http://apm-nagaoka.com

編集 / デザイン：秋山孝、御法川哲郎
 印刷所：東銀座印刷出版株式会社
 ※無断で複写、複製および使用を禁ず。

・中綴じ製本 / A4(天地297×左右210mm)
 ・表紙・本文：ミューマツ菊Y93.5(北越紀州製紙株式会社)

APM20
Poster-7 2016-2015 Takashi Akiyama

Date of issue：2016.04.01
 Publisher：Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka
 2-10-8 Miyauchi Nagaoka-city Niigata 940-1106 Japan
 Tel,Fax：0258-39-1233
 E-mail：info@apm-nagaoka.com
 URL：http://apm-nagaoka.com
 Edit / Design：Takashi Akiyama, Tetsuro Minorikawa
 Printed in Higashi-Ginza Insatsu-Shuppan Inc.

© 2016 Takashi Akiyama, Published in Japan by Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka.

All right reserved.No part of this book may be reproduced in any form or by any means, electronic or mechanical,including photocopying or recording, or by any information storage and system,without permission in writing from the publisher.